

NEWSLETTER No. 30



CWS
JAPAN
Church World Service
2019年1月号

アフガニスタン防災事業最終年をむかえて

CWS Japanは2017年より、外務省NGO連携無償資金協力事業としてアフガニスタンで防災事業に取り組んでいます。プロジェクトの肝は、国土防災技術株式会社のご協力の下、日本のハザードマップ作成技術を現地で普及しやすいようパッケージ化し、無料ソフト、無料データを使って災害リスク評価が出来るようにしたことです。その技術を習得した現地のNGO・大学・政府機関・コミュニティ代表者は、自ら災害リスク評価を行い、避難所を含むそれら情報を盛り込んだリスク・コミュニケーションツール、日本で言われている防災マップに落とし込み、地区防災計画を策定していくという作業を行っています。日本のように、必ずしも安全な場所に学校・施設があるわけではないので、リスク評価を行った後に策定する避難行動計画では、高台の長老の家が避難所に指定される事もあります。こうして、より現地の実情に合った防災計画が作られています。

本事業が対象とする地域はアフガニスタン東部に位置するナンガハール県及びラグマン県で、主な災害リスクとして洪水や土砂災害があります。今取り組んでいる技術移転にはカブール大学も興味を示しており、国内の技術者養成のためにカブール大学に防災修士コースを新設し、それに日本のODAを活用したいと、在アフガニスタン日本国大使館に要請文書が出されました。本事業から派生したインパクトとして、このように現地で防災への関心が広がっている事をとても嬉しく思っています。

またさらに、もう一つ特記できることとして、本事業がアフガニスタンの防災の法的枠組みの見直しや国家災害省5カ年計画策定に関わることになりました。日本では、土砂災害防止法という法律の下、標準化されたリスク評価が行われ、災害リスクの高い場所は危

険区域に指定され、開発制限などがかかります。アフガニスタンではこういった法律が存在しないため、災害リスク評価を行ったとしても、リスクに晒されている人々を守る術が非常に少ないのが現状です。そこで、本事業では安全な避難場所の特定や避難行動の迅速化に取り組んでいます。次に洪水や土砂災害が起こったら、全て流されると分かっている場所に、人々が定住する事は好ましいことではありません。アフガニスタンの議会や大統領府なども含め、人命を守るためのアドボカシー活動も引き続き進めていきます。

2019年～2020年は、本事業の最終年になりますので、アフガニスタンの継続的な災害リスク対応に少しでも寄与できるよう、持続性に配慮して事業運営を行っています。（文：事務局長 小美野 剛）



今月デリーで開催した事業評価ワークショップでのグループワーク

「中部スラウェシ州地震・津波被災者に対する仮設住宅設置事業」開始

2018年9月28日にインドネシアのスラウェシ島で発生したマグニチュード7.5の地震により、州都パル市を中心とした中部スラウェシ州は甚大な被害を受けました。これを受け、CWS Japanは2018年12月からCWS Indonesiaと協力して仮設住宅の設置事業を開始しました。事業期間は4か月間で、パル市に隣接するシギ県及びドンガラ県において自宅が完全に倒壊した200世帯を対象とし、仮設住宅の設置に必要な資材及びトレーニングを提供します。

中部スラウェシ州では、地震により2,000名以上が死亡し、行方不明者も1,000名を超えています。現地では道路や生活インフラなどが段階的に復旧していますが、2018年12月時点で11万人以上が避難生活を送っています。6.7万世帯の住宅が損壊し、そのうち1.5万世帯は自宅が完全に倒壊しています。現地政府の発表によれば、政府、NGO及び国際機関により今後22,784棟の仮設住宅の設置が計画されていますが、資材と土地、技術者、そして資金の不足により計画は遅れています。

本事業では、対象地域の自治組織と連携し、住民で構成されるワーキンググループを組織し、仮設住宅の設置に必要な資材及びトレーニングを提供することで、住民自らが相互に協力して住宅を設置できるよう支援します。この方法により、対象者の選定における納得感を醸成し、地域の理解を得やすくするとともに、設置後も住民が主体となりの維持管理ができるようになることを目指します。

(文：事務局次長 打田 郁恵)



CWSが過去にインドネシアで設置した同型の仮設住宅

新スタッフ就任のご挨拶

Hello everyone! This is Sangita Das, the newest member of CWS Japan family. I was born and raised in the post-war capital of Bangladesh, educated in India and Japan, and have been living here since June 2000. I call Sagami-hara City of Kanagawa prefecture my home now, where I live with my husband and two children.

I earned my bachelor's degree in Architecture from School of Planning and Architecture in New



Delhi, where I wrote a dissertation on Cyclone Shelters of Bangladesh. I have been interested in Disaster Risk Reduction (DRR) ever since, and that is the area I have been researching on since I got Masters degree from Tokyo Institute of Technology. I have worked as a Researcher for The University of Tokyo on a SATREPS project on earthquake resilience of Dhaka since 2016, and now I look forward to exploring the other disaster prone areas of the world as the Research Coordinator of CWS Japan.

The main goal for any DRR researcher, in my understanding, is to find a solution that will bring down the amount of damage to zero. Unfortunately, with the climate changing and so fast, added by rapid urbanization and deforestation, we are moving further and further away from that goal. It requires multiple sectors to join hands to build resilience against disasters, but we all know how difficult that is to achieve in many areas of the world today. There are wonderful innovative ideas, but many of them die before seeing the light of day. I hope to work closely with local innovators and communities in various disaster-prone areas of the world on behalf of CWS Japan in finding workable solutions for better resilience against disasters. I also plan to document and publish the lessons I will learn through these experiences from time to time. I really look forward to working hand in hand with all of our partners and collaborators from now, in achieving our common goals.

(文：Research Coordinator Sangita Das)